

# 高値更新の米国株、死角はあるか？

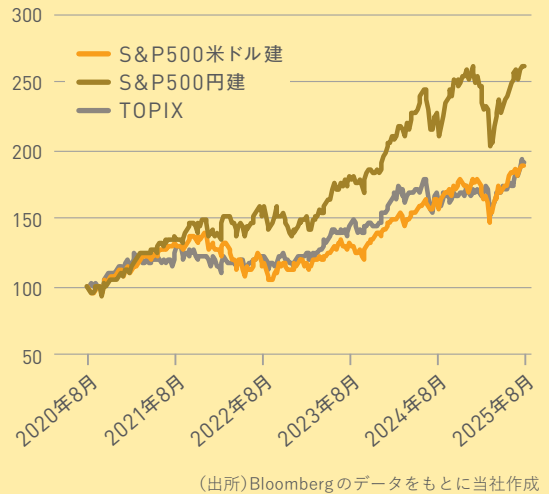
米

国株の好調が続いている。S&P500は、春先の関税ショックを乗り越え、再び過去最高値を更新。過去5年のパフォーマンスは日本株も遜色ないが、円安の影響もあって米国株の高パフォーマンスを

実感している人も多いのではないだろうか。

好調な時ほど注意を払いたいのがリスク。このところ指摘されるのがインデックス投資における「偏り」だ。米国市場では「大きい株がますます大きくなる」傾向が顕著に見られる。例えばS&P500との連動をめざす代表的なETFの構成を見ると、上位7銘柄でおよそ3分の1となっている。また、業種の偏りも気になる。情報技術セクターに加え、他セクターのハイテク企業も含めると、構成比は4割を超える。もちろんテクノロジーの将来性を表しているとも言えるが、市場平均に投資すると偏るという点は押さえておきたい。銘柄選定や分散投資など、米国株の「持ち方」を考えるタイミングと言えないだろうか。

■ 図表1 S&P500 とTOPIXの推移  
(週次、2020年8月31日週～  
2025年8月25日週、開始時点=100)



■ 図表2 iシェアーズ・コア S&P500 ETF (IVV) 構成銘柄 (2025年8月29日時点)

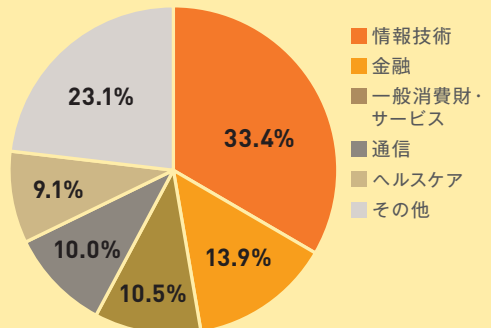
上位7銘柄

| 順位 | 企業名          | 業種         | 構成比率 |
|----|--------------|------------|------|
| 1  | エヌビディア       | 情報技術       | 7.7% |
| 2  | マイクロソフト      | 情報技術       | 6.9% |
| 3  | アップル         | 情報技術       | 6.3% |
| 4  | アルファベット※     | 通信         | 4.1% |
| 5  | アマゾン・ドット・コム  | 一般消費財・サービス | 3.9% |
| 6  | メタ・プラットフォームズ | 通信         | 2.9% |
| 7  | ブロードコム       | 情報技術       | 2.5% |

※クラスA、Cの合計

34.4%

業種別構成比率



## 三菱UFJモルガン・スタンレー証券の 投資情報をご活用ください。

当社では、投資家の皆さまにご活用いただけるよう、  
株式(国内・海外)、為替、金利、マクロ経済など、  
国内外の金融市場に関する幅広い分野の情報を提供しています。  
ぜひお取引店までお気軽にお問い合わせください。

